

りょうCaféのご案内

1. 出張りょうCafé

- 3人以上の人数を集めていただければ、石川りょうが市内のどこにでも伺ってりょうCaféを開催いたします。お問合せください。
- 日々の相談事や、船橋市政へのご意見・ご要望等は、お一人からでもいつでも受け付けています。ご都合の良い日時と場所に伺います！



2. りょうCafé芝山団地商店街

- 基本は毎週水曜日の10時から正午
船橋市政へのご質問やご意見など、市民の皆さんの生の声をお聞かせください。石川りょうと個別に話したいという方向けです。
*今年に関しては、11月末で終了予定(来年の春から再開予定)

- *参加費無料。途中入退室はいつでも可能です。お気軽にご参加ください！
- *日時等の変更の可能性があるので、石川りょう公式サイト、SNS等で必ずご確認ください。



プロフィール

【学歴】

栄光幼稚園、芝山西小学校、芝山中学校、八千代高校、立教大学法学部国際比較法学科、英国国立マンチェスター大学院、早稲田大学公共経営大学院

【職歴】

青年海外協力隊、国際連合インターン、開発コンサルタント、外務省(外交官)を経て、船橋市議会議員(健康福祉委員長)

【資格など】

法学士、開発学修士、公共経営修士、TOEFL(CBT) 257点(TOEIC 915点相当)、仏語検定3級、プロジェクトマネジメントスペシャリスト(PMS)、政策学校「一新塾」32期生、ビール検定2級、ふなばし市民大学学校平成26年度ボランティア入門学科



▲認知症予防講座にてスピーチ

連絡先

ご意見やご質問、ご要望を何でもお寄せください！

石川りょう公式サイト
<http://www.ishikawaryo.net>



もやっています。

発行者:石川亮
住所:船橋市芝山3-26-1
携帯電話:080-6575-4711
固定電話:047-463-2690
メール:info@ishikawaryo.net

この通信でご紹介できている活動内容は、ほんの一部です。詳細な内容やその他の活動は、石川りょうのブログを是非ご覧ください。

石川りょう アメブロ



で検索! または、QRコードはこちら →



船橋市議会議員 無所属

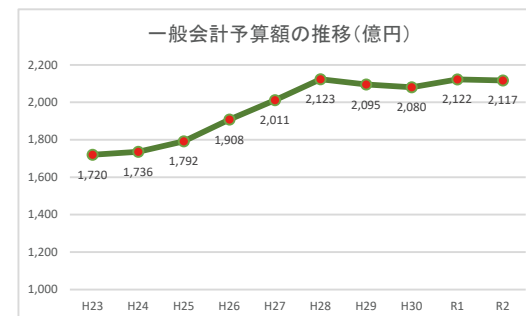
石川りょう通信

Vol.33 討議資料

新型コロナの影響を受ける来年度の予算編成

船橋市は令和3年度の予算編成の時期を迎えていますが、来年度の予算編成がこれまでと大きく異なる点は、世界経済に大きな打撃を与えている新型コロナウイルス感染症の影響が計り知れないことです。国レベルでは、令和2年4~6月期のGDPは年率換算で27.8%の減少となり、リーマンショック後の減少幅を上回る戦後最大の落ち込みとされています。本市でも、5月に船橋商工会議所が実施した企業活動影響調査では、宿泊・飲料サービス業や娯楽業における100%の企業でマイナスの影響が出ていることをはじめ、全体の93%の業種ですでに影響が出ているという結果でした。市内経済はほぼ全ての業種で大きな打撃を受けているということであり法人市民税や個人市民税、地方消費税交付金など、本市の歳入の減少が予想されています。入ってくる額が少なくなれば、その分、出ていく額を減らさなければなりません。つまり、来年度以降の船橋市の予算規模は縮小する可能性があり、これまでできていた様々な事業を廃止・縮小しなければならない可能性があります。市民の皆さんにご迷惑をおかけするかもしれません。

今年度に関しては、新型コロナ対策のために、国が自治体に対して多額の交付金を抛出した関係で、船橋市では約50億円もの一般財源を必要とする様々なコロナ対策事業を実施することができましたが来年度以降も同様の財源措置があるかどうかは不透明な状況です。しかし、そのような状況の中でも、新型コロナが招いた困難に苦しむ市民の皆さんや企業を支援していくことは自治体の使命です。現在進行中の行財政改革を着実に進めることにより歳入を減らしつつ、市の貯金である財源調整基金(約80億円)を適切に活用して、この危機を乗り切っていけるように考えてまいります。



▲近年は2,100億円程度で推移してきた一般会計の規模が、新型コロナの影響により、令和3年度以降にどのように変化するか注視しなければなりません。

海老川上流地区のまちづくりに黄信号？

現在進行中の組合施工による土地区画整理事業である「海老川上流地区のまちづくり(ふなばしメディカルタウン構想)」*1において、船橋市の大きな瑕疵が発覚しました。本事業の事業費総額として算出していた約158億円という金額に、諸経費や消費税等の約54億円を計上していなかったという事件です。語弊を恐れずに言えば、本来は200億円以上かかる事業の総額を158億円だと信じ切ってこれまでやってきたということです。我々議会にとっても寝耳に水の話でしたが、最も驚いたのは区画整理事業の当事者の方々(組合、地権者、業務代行予定者等)ではないでしょうか。私はこの点について、船橋市議会第3回定例会で質問をしました。重要なポイントは以下の通りです。

業務代行予定者	●158億円という当初の事業総額を基準に調整中 (大幅に超えるようならば、事業は頓挫する可能性がある)
組合	●令和3年9月までに地権者の90%以上の本同意を得て組合を発足 (発足できなければ、事業は頓挫する可能性がある)
医療センター	●令和5年度末に建替え開院を目指す予定だったが令和8年へ遅延 (それまでにできなければ医療センターは他の場所を検討)
再発防止	●局内での検査や確認の見える化の徹底
市長	●将来の船橋市にとって大切な事業と考えている。 ●スケジュールは遅れるが、事業を継続していきたい。

本事業が遅れてしまうことは確実なことが判明し、事業の存続すら予断を許さない状況であることもわかりました。しかし、市長が言うように、本事業は本市の未来にとって重要な開発計画であり、実施できるのであれば実施してもらいたいと私も考えています。今後の動きもしっかりとチェックしてまいります。

*1 海老川上流地区のまちづくり(ふなばしメディカルタウン構想)とは？

休耕地や資材置き場が目立つ船橋市の中心部(住所でいうと米ヶ崎町と東町周辺)を市街化区域に都市計画変更し、東葉高速鉄道の新駅を誘致し、市立医療センターを移設することによって、医療と福祉機能を街のコンセプトとする「メディカルタウン」を作ろうという民間主導の土地区画整理事業。民間の業務代行予定者が決まる前は船橋市が事務局となり、予算を投入して事業を強力に推進してきた。地権者は約200人。



【ご報告】市立学校の児童生徒へ1人1台の端末の整備が実現します！

前々号の通信で、船橋市のICT機器やオンラインの活用について提言し、その後も執行部に働きかけを続けてきた結果、令和4年度末までに整備予定だった児童生徒への1人1台の端末の配布が今年度末までに実現することになりました。併せて、全ての学校に十分な容量の通信環境が整備されるのも今年度中になりました。端末は、小学校と特別支援学校にはiPadを、中学校にはChromebookが整備される予定です。



▲会派で市長に提言書を提出

ただICT機器が整ったとしても、それを扱う児童生徒や、指導する教員のICTリテラシーが上がらなければ宝の持ち腐れになってしまいます。私から教育委員会に対するさらなる提言は、①ICTスキル向上のための教員への研修の拡充と、②教育委員会内にICT教育を専門に考えて強力に推進する担当課なり室を設置すること等です。

小中高生オンライン議会見学会・意見交換会

私が副委員長を務める広報委員会では、市内の小中学生、中学生、高校生を対象とした「議会見学会・意見交換会」を毎年開催してきましたが、今年は新型コロナウイルス感染症の影響により開催を控えるべきではないかという声が委員会内で大勢を占めていました。しかし、議会や議員を身近に感じてもらう主権者教育という大事な側面、そして何よりコロナ禍でこそ議会も新しいことにチャレンジするべきであるという信念のもと、正副委員長として、Zoomを使ったオンラインでの開催を断行することにしました。

蓋を開けてみれば、オンラインでも100名近い参加を得ることができ、盛会となりました。議会の仕組みをスライドで説明し、まるで実際に議会に来ているような感覚になる動画を見てもらいました。その後、小グループに分かれて、一人の議員と複数の児童生徒による意見交換会を行いました。子どもたちからは、「なぜ議員になったのか?」、「普段は何をしているのか?」といった好奇心からの質問はもちろん、「船橋は海に面しているが津波の対策はどうなっているのか?」、「市内に空家が増えているが今後どうしていくのか?」といった練りに練られた鋭い質問まで様々いただきました。実施して良かったと心から思いました。やらない判断をすることは簡単です。しかし、やったからこそ得られたことがたくさんあります。参加してくれた児童生徒から「船橋愛」を感じました。近い将来、このような若者たちと一緒に地元・船橋を盛り上げていきたい、さらに住みよい街にしていきたいと心から思いました。

